

児童が生き生きと活動し、 力が付いたことを実感できる学習

～1学年 単元名 どうぶつキングしょうかいまつりをしよう～
教材名「りすのわすれもの」 他 の実践より

中央区 上落合小学校 教諭 渡辺 美奈子



1 単元名の工夫と付けたい力の明確化

学習への興味・関心を高め、意欲的に取り組めるようにするため、単元名を児童と一緒に考えている。児童は、入学してから今までの学習経験をもとに、「本を読んで一番好きなお話を紹介したい。」「友達に質問したい。」「いろんな友達の話を知りたい。」と発言した。その考えを取り上げて単元名を決めた。

児童に配付する学習計画表には、単元の目標の他に「今日の活動（例 一番好きな本を紹介する文を書く。）と「できるようになること（例理由を入れて選んだ本を紹介する文を書いた。）」を分けて記載した。評価の観点を具体化することで、1時間ごとに目標とする力が付いたかを児童自身が振り返り、自己評価することができていた。

2 学校図書館司書との連携

発展学習で読む本は、「登場人物が動物で、その行動がつかみやすいもの」という観点で選書した。児童が紹介しやすいストーリーの本に絞って準備することで、児童の負担を軽減し、ねらいとする力が付くように配慮した。

また、学校図書館司書にも授業に参加してもらい、児童の本への興味がより一層高まるようにした。



3 学習過程の工夫

教科書教材「りすのわすれもの」で、登場人物に着目し、想像して読むことを学習する。

その学習を活用して、自分で本を選び、登場人物について紹介する。教科書教材で学習した

事が役に立つことや、自分で選んだ本のおもしろさが伝わった喜びを実感している児童の様子が見られた。

4 語彙シートの活用

登場人物を紹介するための例文を載せた語彙シートを活用させることで「登場人物に着目し想像して読む」ことを具体化することができる。「わたしと似ている。（自分の経験と比較）」「読むと、ドキドキする。（登場人物への共感）」「こんなことをしていて、おもしろい。（登場人物を思い浮かべる）」などの文を使い、想像したことをどの児童も自信をもって紹介することができていた。

5 ペア学習

普段の学習から、ペアでの活動を多く取り入れている。相手意識を明確にもち、興味をもってお互いの考えを伝え合うことができていた。「聞いてもらえた、分かってもらえた。」と実感できて、学習の達成感を味わい、「〇〇さんの紹介した本を読みたい。」と次の学習への意欲にもつながっていた。



6 終わりに

国語の学習では、児童が自分たちのアイデアが生かされたと思いながら学習すること、友達とかかわりながら目的をもって活動すること、児童一人ひとりができた喜びを味わえること、が確かな力を付けることにつながっていくと考えている。今後も、「児童が力が付いたと実感できる学習」を工夫していきたい。